

平成 27 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 3 回学校協議会議事録

I 日 時 平成 28 年 2 月 23 日（火）15:00～16:30

II 場 所 茨木工科高等学校 会議室

III 出席者 委員長 1 名、委員 3 名

校長、教頭、首席 1 名、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、特別活動指導部主任、
機械系主任、電気系主任、環境化学システム系主任、初任者 3 名

IV 協 議

1. 開会挨拶（校長）

本日は、忙しいところ出席していただき感謝する。

さて、平成 28 年度入学者選抜から、多くの学校で選抜日程が 1 本化され、本校は一般入学者選抜として 3 月 10 日（木）に実施される。志願書受付は 3 月 3 日（木）、4 日（金）、7 日（月）の 3 日間行われる。1 月の中学生に対する希望調査では、総合募集の専科が 280 名募集のところ 232 名、工学系については 40 名募集のところ 7 名が希望するという非常に厳しい状況にある。工科高校は軒並み厳しい状況にある。志願書受付直前の希望状況が今週の土曜の朝刊に掲載されると思うので注目していただきたい。

本校のホームページで、進路に迷っている中学生のため個別相談を受け付ける旨を掲載している。先週の土曜日も雨の中、2 組の母親と中学生が来校した。最後まで、あきらめずに働きかけをしていこうと考えている。

3 月 2 日（水）には、第九期生の卒業証書授与式を挙げる予定である。委員長には、同窓会会長として祝辞をいただく予定である。

今年度 3 回目の学校協議会ということで、この 1 年間に学校が実施してきたことの成果等を報告させていただく。忌憚のない意見をいただき、学校の改善につなげていく。

2. 協議会委員長挨拶

入学者選抜の志願状況が厳しい状況にあるようだが、まだ日程もあるので総合募集の専科、工学系大学進学専科ともに最後まで働きかけをお願いしたい。今年度 3 回目の学校協議会であるため P D C A サイクル、学校経営に対して意見を述べたいと思う。

3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介

4. 平成 27 年度 本校教育活動の結果報告について協議 (校長)

(1) 平成 27 年度の学校評価（自己評価）について

今年度の学校経営計画について、自己評価の 1 月末現在のものを教育委員会に提出した。年度末にならないと確定しない部分もあるため、空欄や暫定の数字が入っているところがあることを了承願いたい。学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会から意見については、今日の議論を踏まえ、記入する。

自己評価では、空欄、網かけになっている部分は、年度末にならないと確定しない項目であり、確定次第記入する。

1. 確かな学力の育成

(1) の「ア 少人数授業・研究授業等の取り組み」の自己評価について、生徒のアンケートでは満足度が 66.8%となっている。評価指標は 80%で、若干下回っている。非常に効果がでている教科もあるが、チームティーチングの取組みに課題がある教科も散見され、全体として 7 割弱となってしまった。

「イ 中退率改善をめざす取り組み」であるが、評価指標は「イ 中退率を 7%未満」としたが、本校の場合、原級留置となった生徒が退学するケースが多いため、学年末成績確定後でないと確かなことは言えない。ほぼ達成できていると考えている。府立高校、昼間の学校の中退率は平成 26 年度において 2.2%であり、それに比べるとかなり高く、引き続き大きな課題であると捉えている。

2. 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取り組みの「ア 遅刻数削減の取り組み」の項目であるが、遅刻数前年度比 20%削減をめざしているが、年間総数が 5000 以下に収まることが確実である。50%以上の削減を達成したことになる。これは、今年度の本校の最も大きな成果であると考えている。生活指導部を中心に、よく取り組めたと思っている。さらに高みをめざしていきたい。

また、今年度から授業規律違反カード制を導入し、課題はあるが一定の成果をあげており、規律ある授業展開に寄与していると考えている。生徒指導主事から詳しい説明をさせる。

3. 自立・自己実現の支援

(1) キャリア教育・職業体験教育の充実の「ア インターンシップ等への取り組み」の項目であるが、参加生徒 50 名を目標としたが、17 名の参加にとどまった。校内の組織体制も含め、大きな課題だと捉えている。

(2) の「ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進」であるが、資格取得について、電気系 2 年生に全員受験させている第二種電気工事士の結果が合格率 83%とすばらしい成果をあげた。

就職指導については、進路指導主事から説明させるが、2 名の生徒の進路が決まっていない。継続して指導しているため、例年のように 100%を達成できる見込みである。一次試験の合格率について、目標の 70%を越える 71.8%であったが、工科高校の中では低い方で、まだまだ改善の余地があると思っている。

(3) の「ア 工学系・大学進学専科における取り組み」であるが、土曜日に開講している大学連携授業など、一定の成果をあげている。ベネッセの実力判定テストを 1 月 9 日に受験させたが、3 名は全国的にもかなり上位に位置しており、特に 1 名の生徒は数学で 5 万数千人中、23 位という結果であった。国公立大学等への進学が期待できる。結果が出れば工学系への見方も変わり、

志願者増加につながると考えている。

最後の 4.地域連携・地域貢献活動の取り組みの推進であるが、非常に順調に目標を達成することができている。アルミ製朝礼台の製作・寄贈については、今年も 3 台製作し、茨木市立安威小学校、東雲中学校、天王中学校に寄贈した。

また、課題研究充実への取り組みであるが、今年度はじめて 3 系合同の発表会を茨木市生涯学習センター(きらめきホール)で実施した。来賓の府教育委員会指導主事からも褒めていただいた。

以上が、今年度の計画、学校評価の概要である。来年度の計画については、現在作成中である。基本的には、今年度の計画を踏襲している。今日の議論も踏まえ、年度末までに修正を加え、来年度 1 回目の協議会に呈示する。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 少人数授業のアンケートの満足度は少ない気がするのだが。

(教務主任) 生徒の意見ではチームティーチングはいらないと答えている。

(校長) 授業で 2 人以上の教員が指導していると、生徒は見張られていると感じているようである。

(委員長) アンケートの取り方を検討してほしい。

(委員長) 全体としてはよい結果だと感じている。

(2) 工学系大学進学専科について

(教頭) 大学進学専科は今年度 2 年目を迎えた。来年度完成年度となる。大学進学専科は総合募集の専科と比べ、1 単位増やしている。その 1 単位が大学連携である。大学の施設見学・講義、大学からの出前授業などを行った。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 大学連携は成果が上がっているということだが、授業内容は高校と大学のどちらが内容の提案をしているのか。

(教頭) 大阪工業大学とは連携を結んでおり、情報交換を行い、連携授業の内容を検討している。他の大学ではこちらから依頼し提案を行っている。

(委員長) 全ての生徒が進学するのか。

(校長) 家庭事情などで進学が困難な場合を除き、進学する予定である。

(3) 平成 27 年度生活指導部の報告

(生徒指導部主任) 取り組みと成果であるが、1 点目は身だしなみ指導の重点化を行った。ズボンのはき方、ブレザーとカッターシャツの間にパーカーなどを着ている生徒を指導した。2 点目は遅刻指導である。遅刻回数によって細やかな指導を行った。5000 件を下回することは確実である。指導の効果があつた取組みは早朝登校させ、通用門で挨拶をさせた。生活強調週間では朝に多くの教員が校内に立ち、生徒へ声掛けを行った。例年では後期に入ると遅刻数が増える傾向であったが、本年度は 1 年を通して大きな変化はなかった。生活改善ができた生徒が多くなっている。3 点目は授業規律の指導である。授業中の態度を正す指導である。静かに授業や集会での講話を受けることができるようになった。4 点目は懲戒指導の後に事後指導を行っているが内容を変更した。事後指導で授業態度のチェックを行い、学校生活をスムーズに過ごせるように教員が点検した。5 点目は効果的な登下校指導を行った。道路交通法の改正により自転車の乗り方に反則金などが取り入れられるようになった。その内容を交通安全講習会で講義を行い、登下校指導を含め安全な自転車運転の指導を行った。6 点目は茨木警察と合同補導を行った。年に数回行っているが 3,4 回目には茨木警察から茨木工科の生徒を補導することはほとんどなくなったと聞いている。今後の課題であるが、遅刻数をさらに削減することである。就職が決まるころに生活強調週間を設け、3 年生の遅刻数を減らしていく。また、携帯電話、スマートフォンの普及、多機能性から

生徒間で肖像権の侵害やネットワーク上のトラブルが増えている。指導方法として、情報の授業または生活指導部が主体となって講義を行っていく。授業規律の指導方法を改善することも課題である。

(委員長) 質問はないか。

(委員) 26 年度から 27 年度にかけて、遅刻を削減できた最大の理由は何か。

(生徒指導部主任) 毎日、遅刻の統計を取ったこと、生徒一人ひとりに対して、タイムリーに細やかな指導を行ったことである。

(委員) 地域の声からも、最近、工科の生徒はマナーが良くなったと聞いている。道路を歩いたり、自転車を運転する姿を見ても、広がったりせず周りによく気を使ってくれていると感じている。

(委員長) 遅刻に関して保護者との連携は取っているのか。

(生徒指導部主任) 担任に任せているが、ほとんどの担任は遅刻があれば保護者連絡を行っている。また、遅刻数が多くなれば本人、保護者、担任、生徒指導部員の四者面談を行っている。

(委員長) コンピュータ、ネット上のトラブルは何件くらいあったのか。

(生徒指導部主任) 大きなものでは 3 件あった。犯罪意識が薄いことが問題である。

(委員長) ネットワークのトラブルについての取組みはないのか。

(生徒指導部主任) 1 年生の情報技術基礎の授業で携帯電話会社から講師を呼んで、講義を実施した。次年度も教科の取組みとして行っていきたい。

(校長) 来年度の学校系計画に何らかの形で導入する。

(4) 9 期生（平成 28 年 3 月卒業予定）の進路について

(進路指導主事) 現在の進路希望調査の数値であるが、大学進学志望の生徒が就職に変わったり、就職希望の生徒が進学が変わったりするなど、4 月当初の希望調査の状態から若干の変化がある。現在、四年制大学、短期大学、高専への進学希望所については全員進路が決定している。学校紹介による就職を希望している生徒の内、2 名の生徒が進路未決定である。2 名の内 1 名は大学進学をめざしていたが、就職希望に変わった生徒である。2 名とも現在、就職活動中である。専門学校についても希望する生徒は全員進学先が決定している。その他の数名については縁故就職や、自営業の者などである。学校紹介による就職希望者の内定率は 98.7%となっている。おそらく、残っている 2 名については現在就職活動中の企業に内定をいただける予定である。

(委員長) 只今の報告に関してご意見、ご質問はないか。

(委員) 求人数は減っていたのか。

(進路指導主事) 1 割程度増加していた。

(校長) 件数だけを見れば、バブル期並みであると報道されている。

(進路指導主事) 本年度の進路指導を振り返ると、大手企業では大学生の就職活動の時期が変更になり、必要な新規採用者数の確保が難しかったようである。そのため、高校生の 2 次募集で求人を多くいただけることになった。しかし、成績上位層は 1 次試験でほとんど就職先が決定しており、せっかくいただいた求人を活かすことができていなかった。

(委員長) 来年度は進学が増えるので状況が大きく変わるのではないか。

(進路指導部主任) 指定校推薦を利用する生徒が多くなると感じるため、進路志望部内で進学担当者の増員を行う予定である。

(委員長) 履歴書などの書き方を外部講師などに依頼することはあるのか。

(進路指導部主任) 履歴書については担任や進路指導部員で行っている。面接についてはハローワークに依頼し、講師を招き、講義をしていただいている。

(委員長) 就職希望者の内定率 100%は評価指標にないのか。

(校長) 就職内定率 100%は当然であり、指標にはない。本校では 1 次内定率に課題があるため、その数値を指標としている。

(5) 平成 27 年度 資格取得等の実績状況について

(教頭) 昨年度と比べ大きく変化したものは、第 1 種電気工事士であり取得者が倍増した。生徒、指導担当教員のがんばりであると感じている。また、技能検定旋盤 3 級も取得が難しい資格であるが 6 名の生徒が取得することができた。本年度は経験の少ない教員が専門外の資格を生徒と一緒に勉強し、取得することがあった。多くの教員がより具体的な指導を進めていくことができる。競技大会では電気工事士技能競技大会において 11 校中 1 位の成績をあげた。機械研究部ではロボット相撲大会で近畿大会 5 位、全国大会出場を果たした。

(委員長) 何か質問はないか。

(委員長) 第 2 種電気工事士は 2 年生対象であるのか。昨年度より合格者が減少しているのではないか。

(電気系長) 昨年度不合格の生徒や本年度は工学系大学進学専科の 2 年生も受験している。しかし、電気系の生徒在籍数が少なくなったため、合格者の人数自体は減少している。工科高校の 2 期生から電気系では全員受験させている。

(6) 平成 27 年度 課題研究発表会アンケート結果について

(教頭) 2 月 10 日 (水) に学校に近い茨木市生涯学習センター (きらめきホール) にて 3 年生の発表者、2 年生全員を対象に課題研究の発表会を行った。各系で多くの研究テーマがあったがアルミ製朝礼台の製作など全体で 7 テーマに絞り、発表させた。この発表会を聞いた 2 年生からのアンケート結果である。発表内容について約 6 割の生徒が理解できたようである。しかし、3 年生で学ぶ専門の内容についてはまだ理解できていないことがあったようである。司会を 3 年生の生徒が務めていたことも 2 年生からの評価は高かった。初めての行事であり、課題はたくさんあると感じる。発表を聞く生徒は 2 年生だけでよいのか、全校生徒にするのか、など次年度に向けて取組み方法を検討していく。

(委員長) 何か意見、質問はないか。

(委員) 私も出席していたが、中学校の先生も聞いており、よい雰囲気であったと感じている。

(委員長) 主な目的はどのようなものであったのか。

(校長) 今後、課題研究に取り組む生徒への啓発と地域への情報発信を主な目的としている。以前は各系で校内での発表にとどまっていたが、地域の中学校にも案内を出している。

(委員長) 7 テーマの発表であったが、学校全体では何テーマあったのか。

(機械系長) 機械系は 4 クラスあり、1 クラス 4 グループあるため 16 グループである。研究テーマは各クラスで重なっているものもあるため、テーマ数は 16 テーマより減っている。

(委員長) 選ばれなかった生徒は納得しているのか。

(機械系長) 4 月に生徒がテーマを選択するときに、このテーマは発表するとあらかじめ伝えていた。

(電気系長) 電気系では電気系だけの発表会を行い、発表者を決定している。

(委員長) 目標を明確にして実施してほしい。地域貢献であれば地域の見学者をもう少し増やすべきである。

(委員長) 最優秀賞など各種表彰まで考えてみてはどうか。

(校長) 初年度であったため、そこまで検討はしていなかった。今後検討する。

(委員) 今回の発表会の様子を中学校へ伝える方法を検討してもよいのではないかと。朝礼台など実際に中学校へ寄贈しているのだから、もう少し強引にでもアピールしてもよいと思う。発表会だけではなく、実習の様子などの動画を作成し、ホームページへ掲載してもよいのではないかと。

(校長) 現在、ホームページは校長が更新していた。今後は担当者を決定し組織的に PR 活動を行いたい。

(7) 平成 27 年度 クラブ・同好会の活動実績について

(特別活動指導部主任) 運動系クラブが 14、文化系クラブが 13 活動している。運動系クラブでは自転車競技部がインターハイなど全国大会に出場している。硬式テニス部は実業総体で団体優勝などしている。文化系クラブでは機械研究部がロボット相撲で全国大会に出場している。鉄道研究部では全国鉄道模型コンテストに出場し、ベストクオリティー賞を受賞した。今年度は 4 つの同好会が部へ昇格しており、多く生徒ががんばっている。

(委員長) 現在のクラブ加入率はどのくらいか。

(特別活動指導部主任) 実際に活動している生徒は 200 人。名簿上では 280 人である。

(校長) 公式的には 42%である。

(委員長) クラブをしている生徒としていない生徒では就職内定率で違いはあるのか。

(特別活動指導部主任) 数値は取っていないが、部活動を 3 年間やってきた生徒は面接などで好印象を与えることは確かである。

(委員長) 是非、相関関係を調べてもらいたい。

(8) 学校教育自己診断について

(首席) 学校教育自己診断のアンケート結果を生徒、保護者、教員それぞれについて、肯定的な回答が多かった順に並べている。本年度の学校経営計画で学校教育自己診断の数値が指標になっているものは教育相談関係「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる」の項目の肯定的回答を 40%以上とすることをめざしていた。今年度は 34%で達成することはできなかった。しかし、教員のアンケート結果では「生徒から気軽に相談を持ちかけられる」の肯定的回答は 19.4%増加している。生徒への質問で相談場所を保健室や相談室に限定した結果、低い数値となってしまうのではないかと考えられる。次に保護者の結果で数値が非常に下がっている項目がある。

「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に行い、きめ細かな指導を行っている」では昨年度から 25.5%の減少となってしまった。原因として考えられることは、本校では学力に課題のある生徒に対し、積極的に保護者連絡を行う傾向があり、成績上位者の保護者とはあまり連絡を取らない。近年の保護者は、生徒のがんばりや学校行事にも関心が高くなっているため、連絡がないと不安になっていると考えられる。特に工学系大学進学専科の保護者からの回答が低い数値となっている。就職希望の保護者よりも早い時期から進学に関する情報を欲しがっているのではないかと考えられる。教員のアンケート結果からも「学校は教育方針をわかりやすく保護者に伝えている」の項目が 19%減少している。生活指導部の改革などが急ぎすぎたため、教員もしっかり変化を把握できておらず保護者に対して正確な方針を伝えることができていなかったと感じている。

(委員長) 質問、意見はないか。

(委員) 例年、進路に関して就職、進学ともに頻繁に保護者連絡はしていたのか。学校からの手紙や連絡などを生徒から保護者へ配布しているのか。

(首席) 例年では進路情報提供は 3 年生になってからである。システム的には進級が厳しそうな生徒に対して、担任から保護者へ電話連絡を行うことが多い。

(委員) 三者懇談などはないのか。

(首席) こちらについても成績不振者に対しての三者懇談は行っているが、1、2 年生の段階で進路に関する懇談はほとんど行っていない。

(委員長) データの有効な利用方法はないのか。否定的な項目の順に並べると課題は見つかるのではないか。

(首席) 保護者のアンケート結果から、答えられない、わからないという回答が半分以上を占める項目については今後削除したほうがよいと感じている。また、生徒、保護者、教員の質問内容についても明確な回答を得られるよう変更する必要があると感じている。

(委員長) 内容の精査も含め検討していただきたい。このアンケートは毎年行う必要があるのか。
(校長) 毎年行うことが義務付けられている。指示されているアンケート項目もある。
(首席) 府教育委員会から指示されている項目は各アンケートに対して 6 項目ある。それ以外は学校独自の項目である。
(校長) 経年変化を見るために、アンケート項目の大幅な変更は行っていないが、今後は精選していきたい。
(委員長) ぜひお願いしたい。

(委員長) 全体について質問はないか。
(委員) 学校経営計画に中退者の削減を挙げているが、学校教育自己診断アンケートとの関係は把握することができているのか。
(首席) アンケートを実施しているのが 1 月であるため、それまでに退学した生徒のアンケート結果は含まれていない。
(校長) アンケートは無記名で行っているため、年度末で転退学する生徒についても個人を特定することはできない。
(委員長) 転退学した生徒は異動するときにアンケートなどは取っているのか。
(校長) とっている。
(委員) そのアンケートについても学校の改善点につながるよう、活用してほしい。また、異動する前に生徒の気持ちを敏感に感じ取る方法も考えてほしい。
(首席) 今回の学校教育自己診断を見ても学校行事やホームルーム活動について、生徒のアンケート結果は否定的な回答が多くなっている。また、肯定的な回答が 50%を超えている項目は 31 項目中 9 項目しかない。生徒は学校生活を非常に窮屈に感じている。学校行事などを通じて生徒の達成感や自己有用感を高めてやる必要がある。
(委員長) 何年生で転退学は多いのか。
(校長) 圧倒的に 1 年生が多い。学習に課題を抱えているというより、学ぶ意識が薄い生徒が多い。学ぶ楽しさなど、意識改革ができれば中退率は改善されると考えられるが、抜本的な改革案は見つかっていない。
(委員) ミスマッチによる入学もあるのではないかと。普通高校へ進学する生徒に比べ、工科高校へ進学する生徒は大きく学校生活が変わると感じる。中学校の教員や生徒へ工科高校の指導方針、魅力などをもっとアピールして認知度を上げてほしい。
(委員長) 実学教育の大切さが伝わるようアピールしてほしい。

(委員長) 以上で協議を終了する。

5. 閉会の挨拶

長時間に亘り議論いただき、感謝する。

課題等まだまだ山積しているが、指摘いただいた点について、改善できるよう引き継いで行く。

6. 事務連絡

(教頭) 新年度 3 回分の学校協議会の計画を立てている。委員の決定、各回の案内を送付する。